

あごら

MINI

〈6号〉

1977年6月発行 ¥100 千50

今月のなかみ

〈特集〉

女の代表として立ちまあす

提案権のある野党でたたかう

「参議院ジャック」を目指す

参議院全国区を男女同数に

女性優位の新しい社会を

「これから・その後」

ステンドグラスを作る森本康代さん

先天性四肢障害問題を一緒に考えよう

「政治を変えたい女たちの会」アツピール

「伝える」

「読む」

「見る」

「実務シリーズ」

「女のつどい・女の講座」

田中寿美子

吉武 輝子

俵 萌子

榎 美沙子

榎 美沙子

榎 美沙子

榎 美沙子

榎 美沙子

榎 美沙子

榎 美沙子

榎 美沙子

榎 美沙子

榎 美沙子

8 7 6 6 6 5 5 4 3 3 2 2

〈あごら〉は会員の 出した基金と年会費
および雑誌〈あごら〉〈あごらミニ〉の売
上で運営されており、どの企業、どの政党、
どの団体からも1円の援助も受けていま
せん。年会費は婦人問題総合情報誌〈あごら〉
(A5 180ページ)ととも4,000円。〈あごら
ミニ〉のみ購売の場合は2,000円(いずれも
送料とも)です。会費・誌代は振替でどうぞ。

〈女と男〉のミニ雑誌〈あごらミニ〉 ●何でも言える

●何でも書ける●小さな〈ひろば〉=AGORA・〈あごら〉

●あなたの声を待ってます。下欄の編集部へどうぞ。

立錫の余地もないほどの人、人。場内の熱気がムンムン伝わって来ます。拍手、また拍手。その熱気を象徴するように、一人の若い女が立って力強く叫びます。「私たちの声が届くのです。やっと私たちの声が届くのです。女は女に一票を入れましょう」からだがりびれるような感激的な風景でした。TVに見入っていた私は思わず身を乗り出しました。と、画面に白いテロップが流れ、それが昭和二十一年、戦後第一回の選挙であることを告げました。画面はさらにしんなりつな事実を示しました。この戦後第一回の選挙で、三十九名も当選した婦人議員はその後減少の一途をたどり、現在は衆議院七名、参議院十八名にすぎないことを。

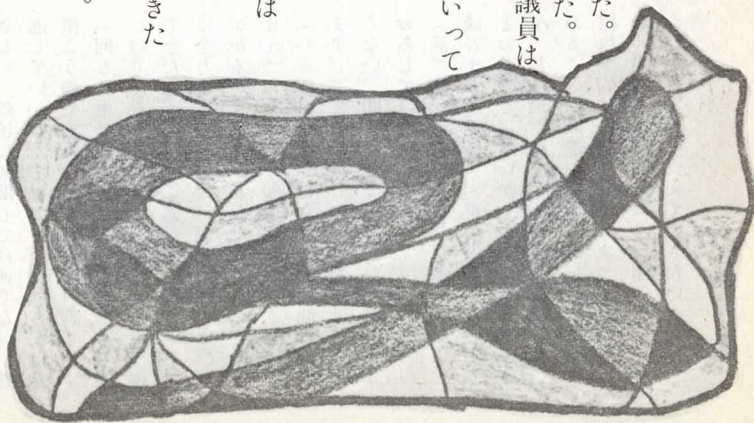
第一回はもの珍しさがあつた、連記制も影響した、と、解説は続きます。たしかに、女だからといって女に投票すればいいというものでもありません。しかし男が、九九・六七%名を占める国会でその後、どんな「いいこと」が起きたでしょう。安保は強行採決され、ロッキードの根は及びり、女にはまだ労働権さえ認められていません。

今度の参院選には、前回よりは多数の女性が立候補する予定です。「女が多く立つときは世の中が乱れるとき」などと評している評論家もいるようですが、男に政治をまかせていたのでは世の中は悪くなってもよくはならないことを女たちが身にしみて知ったのが、大きな原因ではないでしょうか。

各女性グループの呼びかけで、〈政治を変えたい女たちの会〉も発足し、女の問題を考え続けてきた女の代表として、田中寿美子、俵萌子、吉武輝子の三人を支援することを決めました。

〈あごらミニ〉編集部では、この三人と、日本女性党を創った榎美沙子さん取材してみました。

〈女の一票は女の代表に〉と願いながら。(さ)





提案権を持つ野党で闘かう 田中寿美子さん

進学も結婚もすべて自主独立の
3人の娘を誇りにする共働きママ。

全国区第四位、八十五万票を集めて、田中さんは浮かぬ顔をしていた。「議員は全くの肉体労働。私は精神労働がしたい」

あれから十二年、田中さんは陽焼けし、肥り、たくましさを増した。マルクス経済学から文化人類学へ、婦人問題の解析も一層鋭く、一層幅広くなった。「ライフワークは婦人問題に集中する」という覚悟が、重い迫力になっている。

「各政党の婦人政策を聞く」集会でも、田中さんの発言は拔群だった。男女雇用平等法案を提案し得た自信、婦人問題研究者としての積年の実績が、一言一言に光っていた。国会にせめて十人の田中さんがいたら……と、改めて思わずにはいられなかった。

が、今度の選挙は苦しい。落ち目の社会党は、非労組出身の田中さんに十万の基礎票しか渡せなかった。推せん労組は自分の労組出身者が立候補したときは一人三千円のカンパを提出したが、田中さんには一人百円。「労組に拠るタテ割りではない地域に拠る横割り」との度重なる提案は大労組の反対でまたも蹴られ、北から南まで一日三百キロの日本縦断強行軍だ。「社会党から立つ非労組出身者は今に死ぬでしょう」と田中さんは苦笑

する。しかも戦いはまず党内から始まる。すべての差別に敏感であるべき社会主義者にしてなお根強い男性優位。加えるに労組エゴ、そして結党の歴史にさかのぼる宿命的な派閥。女の問題を持ち出すためには、それら一つ一つを克服していかなければならない。

一方、マスコミは、一旦政党に帰属するとたちまち文化人の座から引きずり降ろす。TV・雑誌等への発表の場はなく、収入も激減するという「逆差別」がある。無所属議員の一举一動はマスコミを賑わすというのに。

「それでも社会党に留まるのはなぜですか」「責任感ですね。夫と共に戦前から社会主義者。3・15で夫は投獄され、弾圧はいやというほど味わった。社会主義者は社会主義政党で闘うべきではない」「予算を伴う提案権のある野党は議員数の関係で社会党だけ。政治は現実的なものです」——だから、どんなに苦戦であれ、不利であれ、決して党を離れず、まず党内改革から始め、現実の政治を変えていくという。

この田中さんを見かねて粕谷照美さんが募金と呼びかけたら思わぬ多額が集まり、私財と合わせ法定選挙費用には達した。「政党内でもこのような市民運動型選挙ができることを一つの事例にした」「社会党の悪口を聞くと胸を刺される。欠点は多いが大声で悪口を言える唯一の党です」——いわずな人、絶対に落してはならぬ貴重な人だ。(千)

「一の次は二、二の次は三、三の次は四でしょう」式の迫り方をするから反対者に憎まれる——とは、千夏ちゃんの吉武評である。それは千夏ちゃんが、そして私たちが吉武さんを受する理由でもある。この人ほど、自明のことを自明のこととして言う人をあまり知らない。自明のこととも「まあまあ」とボカしがちな日本の社会で、それはやはり貴重なことだろう

三年前、紀平悌子さんを応援した参院選以来、吉武さんの政党ざらには一層強くなったようだ。「戦艦大和にゴムボートで体当たり」とへあごろ8号でも述べている。勇み肌で強者がきらい。大組織がきらい。求める「新しい運動」は、だから当然、被差別者との連動となる。

去年、「きつかけの会」の第二回総括集会(女の分断を連帯に)で、政治をどう変えて行くかが問われ、今の政治には理念がない。弱者に目を向けない、その典型が女子への差別。われわれの中から誰か出なければ……という話になり、「代表」ではない「同等」の人を、と、吉武さんの名が浮かんだ。

一方、地方行政の中で住民運動をやってきた人のなから、「どんなに請願権を持っていても優先権は大政党にあり、結局くらしにツケが回される」と、無党派市民運動家の立候補を求める声が出

んだ。こうして「この指止まれ」の形で始まった新しい運動を求める動きに、

約七十人の男性市議員も参加、全国十万人



“参議院ジャック”を目指す 吉武輝子さん

ジャーナリストの夫が真先にカンパ。
1人娘(中2)も、もちろん応援。

に近いひろがりがあった。

「わずか五千六百円のペアのために女子の三十歳定年を取り消す労組。敗戦で棄民され、満人の妻となった女性を結局は受入れない日本の社会。すべて弱者にツケが回る。これにはシラケては抵抗できない。政治に無関心では通らない。巻返していかなくては」と、吉武さんは悲憤こう慨やる方ないといった口調で話す。「何も約束はできません。が、権力の側には立たない」ということは誓える。当選できたら、参議院の権威性をおとすことに全力を尽します」「何回懲罰委にひっかかるか、そういうたたかいかいしできません」「要するに参議院ジャックを！」

「ハシゴをはずしたらダメな人間になります。選挙の時だけのお友達ではありたくない。間違ったことをしたら引きずりおろしてはしい」

「評」「人の痛みを痛むことのできる人」淡谷まり子さん。「声が大きいのでよくとおるのではないか」ヤンソン由実子さん。とにかく真正直で感性ゆたかな人であることは間違いない。難を言えば「竹槍攻撃的」なところがちよつと気になるが、当選後も変わらぬ「友達として」「ハシゴをしつかり支えていきたい。(S)」

表として
～す!

女の代 立ちま

毀譽はうへんの激しい人である。大ファンがいるかと思えばアンチもいる。どちらが真実か、ホンネに迫ってみた。「大決心のいる路線変更です。離婚のときに似ています。遠因は共働き時代の苦勞です。団地住まいの記者生活、夫と二児の世話で悪戦苦闘、フリーなら時間の余裕があるかと一見タレント風の生活に転向。しかし東京―大阪とんぼ返りの生活でさらにズタズタに。夫に迫る力がたまりなかったか、夫の選択を誤ったか、家事も育児も全部背負っていたので……」

私欲なし・など五つだけ。主体性がある。代表が千夏ちゃんなのも魅力です」

「選挙は、事前運動・連呼を絶対しない。ボランティア中心で五百万円以内に。政策は、弱者・市民の声を生かす。選挙制度を改革し、参議院全国区は男三十、女三十の同数にする。小・中校の入試を禁止、高校は一律の検定制に。大学入試も改革、二十歳以上は二次試験のみでよいことにする。女のためには行動計画を全面的に手直し、雇用平等法と中高年再就職促進法制定をプッシュするのが重点です」

「落ちるとしても立候補に決めてよかった。日本の現状が実によくわかる。アンケートにエネルギーや二百カイリはあっても婦人問題はない。女の問題があるなど、頭から考えてないのです。私の政策には呆然。次に嘲笑。もと夫と相談したかというのが男の記者の質問です」

「選挙民も汚染されてますね。なぜポスターを貼らないのかとどなりこんでくる。連呼もすべきだ、でないと落ちると……」

「都内のポスター掲示場が一万二千五百個所、貼る人手がない。もうらハガキが八万枚、出す名簿がないんです」

「最近さらに張切り実にしたのもしい。ほんとまかせられる人」

「断然へ毀」ならぬ（譽）に回ることになった。（R）



参議員を男女同数に！
依 萌子さん

長女（高2）：イヤだけど断わる権利がない。長男（中2）：やってみたら……と。

白のコットンパンツにクロスステッチのかわいいチョッキ。セーターにはカメオのブローチ。事務所の横さんはもちろん素顔だったが抜けるように白い。「中ピ連」

「女性を泣き寝入りさせない会」と、一部のリブの批判をものともせず独走を続けてきた彼女だが「日本女性党創立」とあつては、じっくり話を聞きたいところ。からかい半分の報道が多いなか、その真意を聞いてみた。

「男女平等というのはコンクリート建築をそのままにしておいて中で木造部分を倒そうとしているようなもの。男社会を倒そうとしないでその中の平等というのはあり得ないことです。コンクリート建築をこわして地ならしして女性優位の新しい女性社会を作ろう。女性解放は一つの階級闘争としてとらえています」

「自民党でも共産党でもない女性党が成立しうるか。女というものが男の立場によつて位置づけられる正常に客体的な存在であるということ。その客体的存在の女はある意味で平等ですよ。社長夫人も別れちゃえばタダの女、そういう意味で連帯できる。まずトレーニングが大事ですね。過去の慣習にとらわれないこと、すべてを疑うこと。バラバラになつてくると本当は集団なんだ、女が階級であるという自覚を持たせること。そのためには女性党なんかも一つのやり方」

「通るか通らないか、そりや大事です。通したいし力持ちたいけど、何のためにやるのかといったら、何百年という歴史

的展望のなかでの責務を果しているということ。次の世代に対して何か遺産を残すことが大事。女性党を作ったということがショックになればいいし、たとえ負けたとしても次の時代の人たちは今私たちが女性党を受けとめるのとはかなり違うと思うんです。いま女性優位という何かスゴイみたいだけど、言わんとするのは五千年の男性社会とは違った新しい社会を作ろうということ。それは結局本当の意味での人間解放、男も女もしあわせになるということですよ」

「いろんな女性グループができていくけど、もっと競争が必要ですね。競争することでお互いに刺激されて、それぞれに強い団体ができて、その上に戦略というか戦術的にまとまろうというならわかります。力もなんにもないうちに女だからというだけで集ると、かえって発展を阻害するんじゃないか。まずおのれの力量を高めること。結果的にそれがより大きな女性運動の進歩につながると思う」

その方法論を裏づける「複理論」を書くには、紙面が少ないが、女性解放は、倫理ではなく「社会科学」だという彼女の話聞きながら、むしろロマンチストの一面をかいま見た気がした。（朋）

女性優位の新しい社会を！
榎 美沙子さん

夫1人、子0人、私生活は霧の中。
虚像はマスコミに充滿。



これから・その後

「かけこみ寺」オープン

自立へのふみ台として

四月十五日、女のリブグループな

どから強い要望がだされ、長い間その必要性が叫ばれていた現代版「かけこみ寺」（正式名称 婦人相談センター）が開所した。夫の暴力からの

がれるための、あるいは離婚・別居で行き場のない女性のためのセンターである。建物はすでに移転した中央児童相談所を改造したもので、定員三十名。緊急婦人保護施設という名の印象とは違った「明るい感じ」であった。

一階は事務室、相談室など。二階が単身者（九畳に三人）、三階 母子用（個室）。

所長の笹間さんは、「かけこみだ理由の大部分は夫の暴力。話をきいてみると、ほんとうによくここまでがまんされた、と思うようなケースがいくつかある」と、「その実情に、がく然とした。今まで素人だった婦人問題にこれから取り込んでゆきたい」と。

センターの業務には、緊急一時保護と電話相談がある。前者については、ほとんどが福祉事務所を通じて、緊急保護件数三十三件、四十七名のうち直接かけこんだケースは五

件。電話は、開所以来一日中鳴りっぱなしで、二十八日までで三百四十七件近いという。

入居者の年齢は十七才から六十才まで。母子十一件、単身二十二件。売防法による保護八件。

退所者は、母子寮移転、住込み就職、他府県に移転などが若干あるが、帰宅が最も多い。福祉事務所が立合って帰宅という結論をだした、というもののようだが、これは「退所後のフォローアップにまではまだ手がまわりかねている」ことに関連して気になるところである。

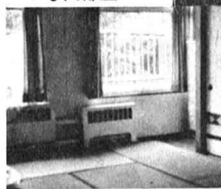
談話室でテレビをみていた人に、今後の方針が決まったかどうか尋ねたが、「ええ」という短かい返事が返ってきただけ。尋ねる側には「心の傷」に、ふ

てはいけないうような遠慮もあるし、答える側

入口付近



▼3人部屋



にしても、ドヤドヤと大勢で入りこんで来た見学者にペラペラしゃべる気になどならないであろう。私たちは「見る側」で彼女たちは「見られる側」であった。「見る側」の私の中には好奇心もあったし、気の毒に、という同情もあった。「でもよくかけこんできたね」という支持もあった。しかし、もう少し私の気持ちをつつこ

んでみるなら、彼女たちが何か「特別」な人である、という意識があったことを否定できない。「私の夫や兄弟などは決して暴力などふるうはずがないから」である。

センターをステッピング・ストーンとして自立することを志す人たちにたちまちおしよせるのは就職と住宅問題だろう。その上に「特別な人たち」という目がある。入居者たちが「ええ」から一歩で将来の設計に力強く取り組んでゆき、私たちの意識から「特別な人」がぬけおちたとき、「彼ら」「われわれ」という壁がなくなる。

諸外国では……

イギリスの「暴力亭主から妻子を守る避難センター」は有名である。夫の暴力から妻子を守ると同時に新しい女性解放の道を作ろうという主旨は、全英のみならず、世界各国の女たちに影響を与えた。

アメリカ、オランダ、カナダ、ドイツ、ノルウェー、オーストラリア、スコットランドなどに、呼称は種々

だが、同種のセンターがある。イギリスでは全国で三十か所以上、米国にも十か所以上ある。

どこの国の施設でも、ウーマンズ・リブ運動にかかわってきた女たちが廃屋を改造して、地域社会からの寄付にたよって始めたようだ。たとえばアメリカで最もよく知られているミネソタ州にある「ウーマンズ・ハウス」は一九七四年、リブのコンシヤスネス・レイジング（意識改革）グループが、一軒の家を共同で借りて作ったのはじまり。資金づくりに苦労しながらも、公的扶助を受けると、センターの自立性が失なわれるとして、ごくわずかの援助を州から受けている。施設は誰でも入れるし、入居期限もない。入居者とスタッフが料理、買物、掃除などを平等に分担し、週一回のミーティングで、日常の諸問題、運営上の問題が話しあわれる。

オランダのアムステルダムにある「私の身体から手を引け（Stay Away from My Body）」という名のセンターは、暴力亭主の犠牲になっている女たちの保護が社会福祉システムに欠落しているとして、ソーシアルワーカーのグループが作った。初めは、ここからの援助も受けなかったが、現在はアムステルダム市から補助金が出て、しかも完全な自立独立をも獲得しているユニークなセンターである。

ドイツにある施設では、そこがレストランをも経営していて、資金作

りと同時に、行く先のない人、他所に行きたくない人たちのための就職の場ともなっている。

これら諸外国のセンターの悩み、問題点をあげてみると、第一に資金難がある。設備が不十分、プライバシーがないなど。第二に、自立・自治の問題。できるだけ自分たちのリブ思想に基づいた施設運営をやりたいこととすれば、公的扶助にたよれない。第三、いつも入所希望者が待っていてことわらなければならない。第四、退所後のフォローアップ。第五、場所秘密保持の問題、第六、子供の教育の問題。暴力父のもとで育った子供たちは、精神的問題を持っていることが多く、専門スタッフが必要とされる。

センターを見守ろう

理由が何であれ、力の強い者が弱い者に対して暴力をふるうということとは、許されない。そんな権利など誰にもない。

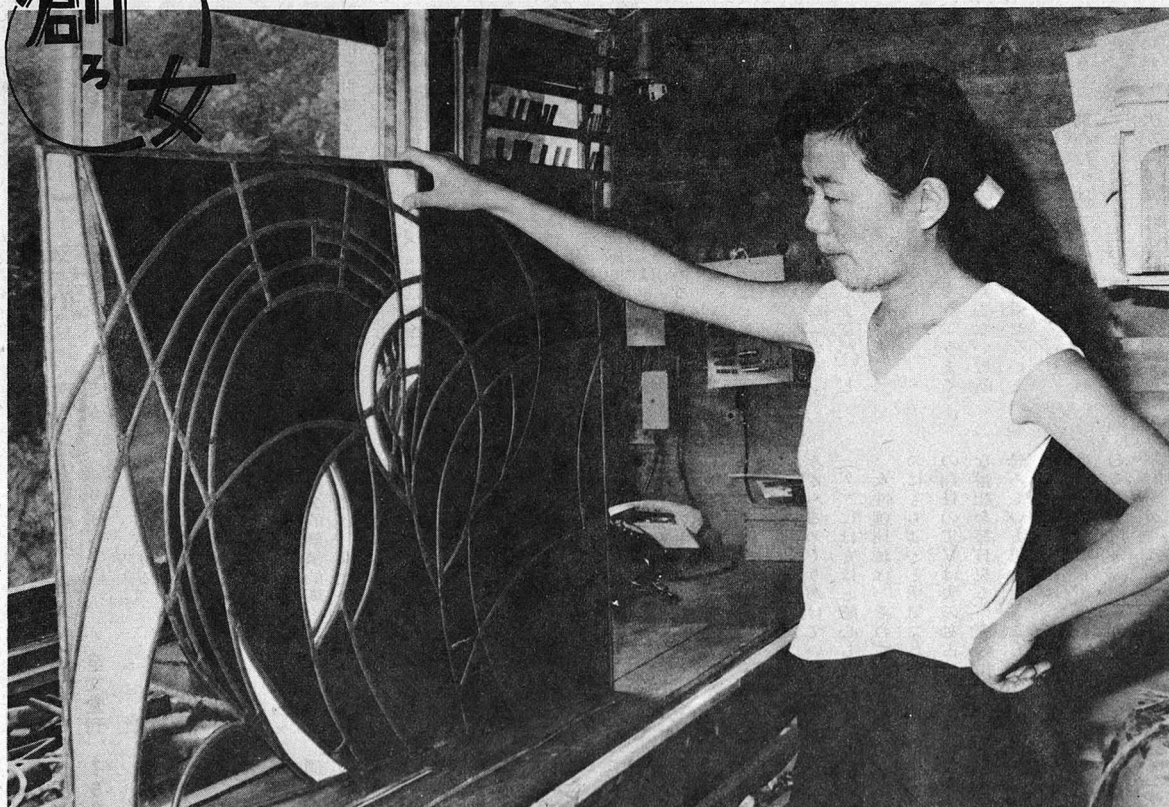
不偏ながら、日本にも暴力の犠牲になっている人々を救うセンターができた。女性解放の新しい視点、男女平等を叫ぶ以前に、人間性を抹殺されている女たちをひろいあげてゆくことでこそ新しいといえる。今後のセンターの動きを見守りたい。

（連絡・婦人相談センター）

〇三—三五—三一一〇

ダイヤル相談に）

（貴）



空間を色で染める ステンドグラス

森本康代さん(31才)

森本さんとステンドグラスとの出会いは10年前。

京都芸大で油絵を学んだ後、ベルギーの国立芸術学校ステンドグラス科に入学した。

2年間、本格的な製作技術を学んだ後、古都ブリュージュで職人

たちにまじり現場の体験も重ねた。今は神戸市の高台にある海の見えるアトリエで、ひとり作品作りを続けている。

ガラスを切り、鉛の枠にはめハんだづけの作業は根気と力のいるものだ。こうした工程をひとりで

こなせるのは女性では彼女ひとり。教会や幼稚園の窓などすでに30点以上の大作を送り出している。

ベルギー人との間に生まれた二児の母親でもあり、多忙な毎日だ。

撮影・文 松本路子

訴える



先天性四肢障害問題を一緒に考えましょう

先天性四肢障害というこばをご存じでしょうか。

私たちの子供は生まれつき手足の指が欠損していたり、指と指の間が裂けていたり、くっついていたり、多かったり、少なかつたりなどの症状をもっています。

二年前、同じ惜みをもつ親が集まり、「先天性四肢障害児父母の会」を結成しました。

障害児およびその家庭にまつわるもろもろの問題を私たちは背負っています。わが子が四肢障害であることを苦にした心中事件もあり、会員の中には離婚した人もおられます。そのほか親類・近所づきあいの疎遠、夫婦不仲、転勤、転居など、アンケートの中にも相当の数が出ています。わが子を押し入れの中で育てたという人もおりました。そのようななかで、また同じ悲しみを味わっている方がいることでしょう。

原因がわからないということ、さらに長い間同じ仲間がふえ続けるということ、そして、ニホンザルの中でも奇形猿が出現しています。近代文明の発達の下に奇病発現もあり得ることかもしれません。四肢障害の問題を知らない方々がたくさんおられます。私たちも声を大にして呼びかけており、五月五日には千駄ヶ谷区民会館で第一回のシンポジウム(人類への警告)を行ないました。

私たちが四肢障害児を持ったときに感じたとても下ろしの感覚は、私たち父母だけのものでは決してなく、実は、いつ、どこでも、起こりうる、人類史への本質的な警告の意味をもっているのではないかと考えます。現代日本は人類の存亡が問われている国はないでしょう。汚染列島としての日本は、これからも多くの障害児を生み出していくことでしょう。

そのような危機の時代に、日本人が、ひいては人類が蘇えるために何をすればよいのか。汚染列島の実態とは何なのか、医学的背景および厚生行政の問題点は何なのか、そのようななかで「父母の会」は何をすればよいのかなどを話していききたいと考えています。障害児をお持ちの方はもちろん、そうでない方もどうぞご連絡ください。

〒306 茨城県古河市桜町九の二の二〇二 電話〇二八〇—二二五六〇三

佐藤 怜子

読む



現代のエスプリ No.117
現代女性の精神構造——アイデンティティの模索——

至文堂刊 790円

心理学・精神医学分野での専門用語だった「アイデンティティ」がいま大流行している。これは、その本来の専門的視点からの内外の女性論を集めたもの。まず女性心理の特徴を明かにする論文、次に女性の精神分析学者による精神構造論、さらに臨床社会心理面で今日の新たな問題を提起するような報告、そして最後に現代の婦人問題に対する提言となる論文を編者（聖路加看護大学教授 岡常哲雄）が選択し、解説している。以下に論題と著者名の

幾つかを掲げる。

津留 宏
女性心理と家族ダイナミクス
女子青年の人格変化
ホルネイ
社会的経済的変容の中にあつて、価値観の多様性は、女性のアイデンティティの混乱を招いている。人間的成長と自己実現を求め新しい女性像確立のための参考となろう。
(大沢和子)

見る



かせて休んで珍しく「主婦向けTV番組」とやらの見た。驚いたのは、ほとんどが女性週刊誌のTV版だったことである。

その一つ、テレビ朝日のモーニングショウ

ちょうど「もらい子殺し」の話だったが、司会者は、これでもか、これでもかと、鬼のような養母を叫弾する。その夫が、「いや、妻はいつもは子供をかわいがってた」と言うのを無視し、「もらい子いじめをしてた」という近所の人の話を拡大する。

世になさぬ仲の親子は多いだろう。うまくいっている仲を引裂くのは例外なく心ない近所の人だという。血の通わぬものは愛せないという誤った母性観がここにもある。

もう一つ驚いたのは「セックスの不満があつた（妻に）ようだ」という近所の人の証言に対し、夫が「そんなことはないはず。週

女性週刊誌以上（？）の

モーニング・ショウ

三回はやってましたから」と答えたこと。問題は回数ではないのに、

殺人に至るには、一つや二つではない原因の累積があるはずだが、加害者の側に立った分析が全くなく、司会者・副司会者の男性コンビが「世にも稀なる悪女」のイメージをみるみるつくりあげていく。ものすごい手腕（？）にほとほと感心した。

女性週刊誌は、それでも、買うのにも読むのにもちよつと勇氣（？）がいるが、夫がるすの白任のTVは妻の独占チャネル。このような番組を毎日見る、その積み重ねをつくづく恐ろしいと思つた。まして幼児でも母と共に見ているとすれば、どんな子が育つだろう。番組の制作者、司会者に、良心的な女性が加わることで、解決の道はあるまい。各TV局にハガキや電話の雨を降らせよう。（美）

伝える！

お金を出してでも伝えたいこと、訴えたいことのある方、どしどしご利用ください。1コマ1,000円です。お申し込みは編集部へ。

今こそ女の代表を国会へ送ろう！

「政治を変えたい女たちの会」からのアピール

★ 女がいきいきと生きられる世界を創ることを願い、女解放へのあらたな運動が湧きあがってから七年にすぎず。わたしたちはこの間、様々な活動をしながら、自己変革と社会変革をめざし、女から女たちへのきずなを強めてきました。そして今、わたしたちの代表を国会へ送るというひとつの機会がやってきました。

★ 政治や制度を変え、女解放、子ども解放、そして男解放の世界を実現させるためには、わたしたちの声を明確に国会で反映できる真の女たちの代表を送る必要があります。その後、野にいたわたしたちと議員である女たちの緊密な友情と相互の自己変革に基いた戦いも始まりました。今こそ、その成果を視野におさめて、今、女の代表を送るべきではありませんか。

★ 「政治を変えたい女たちの会」は、このような主旨で誕生しました。様々な討論の結果、次の三人を推すことに決めました。今迄の政治に失望している皆さん、女の力を今こそ発揮しようではありませんか。

● 田中すみ子（現社会党参議院議員）

私は二つの世界戦争を経て、歳暮の中を闘い、生き抜いてきた一人の女として、女の痛みや怒り、要求を政治の場で主張し続けました。それは全ての差別を、圧迫される人間の解放にもつながるからです。ご支援を……

● 吉武 輝子（吉武輝子とともに新しい運動を求める人びとの会）

いま、生きる不安を一番感じているのは女です。それと真正面から向き合うことのできるのも女です。女の熱い息吹きが、世界のあらゆるところで響き、進んだ男社会をとくし尽すまでたかひめきましよう。

● 依 朋子（革新自由連合）

共働きの生活を十六年間。離婚して、一人を育てるようになってから四年半。私の人生は、苦勞の多い人生でした。だから、私の夢は、女の人々が、共働きをしても、しなくても、離婚しても、夫の死を経験しても、苦勞しなくてむ世の中をつくりたいのです。もっと楽に生きられるようにしたいのです。

★ この「政治を変えたい女たちの会」に賛同する皆さん、共に運動を拡げてください。グループあるいは個人名の多数の参加を呼びかけます。

一九七七、五、二二

連絡先 神奈川県川崎市中原区木月四一三六九
（電） 〇四四一四二一八九〇二

中山千夏・ヨネヤママコ・樋口恵子・小沢蓮子ほか総ぞろい！

東京 新・女の時局大演説会

6月10日（金）6時18時30分
お茶の水電通会館
03125312361
●主催 政治を変えたい女たちの会
●入場料 500円

名古屋 女・政治大討論会

6月4日（土）6時11時
愛知県勤労会館
052766113571
●主催 女・政治大討論会を開催する会
●協力 政治を変えたい女たちの会

設計図の基本をだいに

前号まで、文字の大きさや印刷の方法など、いわば、本や雑誌をつくる「材料」や「道具」について説明しました。

しかし、どんなにいい材料や道具がそろっても、建築でいけばなんにせつな設計図がなくては家は建ちません。

この設計図の基になるのは「企画」です。どういう内容のものを、どういう執筆者が書くか。どんなサイズの本にし、紙はどんなものを使うか。活字の大きさは？ ページ数は？ 発行部数は？ 発行時期は？

費用はどれくらいかけられるか？ 読者対象は？ 編集担当者は？ など、徹底的に討論し、調査してから作業を始めなければなりません。

このような「企画」は、通常「編集会議」というかたちで行なわれますが、会議では全員が心の底から自分の真意を出し合い、自分とちがう意見にも耳を傾け、それぞれがなっとくしてから出発・進行にふみまることがだいじです。編集会議での討論が不十分で、検討すべきことが煮詰められてない、とか途中で計画の変更が起ころうがちですが、これではまるで平家を建てるつ

やさしい編集5へあごら実務シリーズ

もりが中途から二階家になるようなもの。土台の材料の選び方から間取りまで全部が、つてくることになり、費用もたくさんかかるし、仕上がりもみつともないことになります。一度スタートしたものは途中で変更しないのが原則で、そのためには念入りするほどの事前準備が必要です。

出つくすまで意見を吐き合う

ここで特に注意したいのは、日本の、特に女の人の場合、まだまだ感情が閉鎖的だということ。会議の席で、「少しおかしいな」と思っても、他人の意見に引きずられたり、自分の考えをうまく表現できず、そのままOKを出し、あとになってコソコソ文句をいうことが多いようです。よく、

「PTAは帰りの廊下から始まる」などといいますが、全員がそろっていいところ、でどんなすばらしいアイデアを出してもあとのまつりです。このようなことを避けるために会議の前に「何を討論するか」という議題の一覧表をつくって前もって配っておくこと、会議は一回限りでなく、五回でも六回でも回を重ね、十分意見が出つくすようにすること、多数決で強行採決せず、少数意見も慎重に検討し、提案者の意向、理由をみんながよく聞いて判断することなどが必要でしょう。

間取りにあたるページ割り

みんなで確認できますから、あとで誤解が生じません。討論の結果まとまった最終案は読みあげて確認をとったあと、原稿依頼や取材の分担、原稿の締切日などを決め、決定事項をできればコピーにして全員に配ります。

企画が決まると、ページ割りを考えます。ページ割りは、いわば間取りです。何室つくり、それぞれどんな大きさにするか。たとえば論文に十ページ、随筆に二ページなど、意見と希望を出し合って調整していきます。

といって、無制限に部屋を多くするわけにも、また一つ一つの部屋を広くするわけにもいきません。居間には何畳、キッチンには何畳といっただいたいの常識の範囲もあり、お金がかかりすぎるなどの問題もあります。まず、最初に「建坪」に当たるページ数をおさえ、その範囲の中で割りふることがだいじです。

ページ数は十六の倍数にこの建坪のきめ方にも、経済性を基にした一種のきまりがあります。

ふつう雑誌の大きさはA5（あごら）や婦人公論の大きさ（あごら）またはB5（あごらミニ）や週刊誌の大きさ）が多いのですが、A5やB5は、前にお話ししたように十六ページが

一単位になりますから、十六、三十二、六十四など、なるべく十六の倍数になるように考えます。十六の倍数にならない場合は、十六の倍数を引いた端数が、四ページか八ページになるようにします。中途半端なページ数にすると、紙も中途半端になれば、印刷の台数も半端になり、たいへん不経済になります。とくに絶対に避けたいのは奇数ページです。真白なページができてしまうからです。

総ページ数がきまり、ページ割りがきまったら、図のようなページ割り表（台割り表）をつくります。これは進行表を兼ねます。（せがわ・ともこ）

くあごら>16号ページ割り・進行表

| ジャンル | 用紙 | 題名 | 執筆 | 校数 | 校日 | 整理 | 印刷 | 送稿 | 校数 | 校日 | 校数 | 校日 | 校数 | 校日 | 校数 | 校日 | 校数 | 校日 | 校数 | 校日 |
|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 表紙 | 2 | 表紙 | 表紙 | 表紙 | 表紙 | 表紙 | 表紙 | 表紙 | 表紙 | 表紙 | 表紙 | 表紙 | 表紙 | 表紙 | 表紙 | 表紙 | 表紙 | 表紙 | 表紙 | 表紙 |
| 目次 | 2 | 目次 | 目次 | 目次 | 目次 | 目次 | 目次 | 目次 | 目次 | 目次 | 目次 | 目次 | 目次 | 目次 | 目次 | 目次 | 目次 | 目次 | 目次 | 目次 |
| 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 3 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 4 | 2 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 5 | 2 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 2 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 7 | 2 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| 8 | 2 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 |
| 9 | 2 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 |
| 10 | 2 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 11 | 2 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 |
| 12 | 2 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 |
| 13 | 2 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 |
| 14 | 2 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 |
| 15 | 2 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 |
| 16 | 2 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 |
| 17 | 2 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 |
| 18 | 2 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 |
| 19 | 2 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 |
| 20 | 2 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| 21 | 2 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 |
| 22 | 2 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 |

〈女のつどい・女の講座〉

| 日 | 時 | テ | マ | 会 | 場 |
|----------|-------------|--|------------------------|--------------|--------------|
| 6月10日(金) | 18:00～20:30 | 新・女の時局大演説会——田中すみ子、俵萌子、吉武輝子、小沢遼子、中山千夏、ヨネヤマ・ママコ他 | 〈政治を変えたい女たちの会〉500円 | お茶の水全通会館 | 03-253-2361 |
| 11日(土) | 14:00～ | 女のからだティーチン——アメリカのセルフ・ヘルプのクリニックのセライド上映 | 〈リブ新宿センター〉 | 高井戸共同体ズズズ | 03-332-1575 |
| | 14:00～17:00 | 女と生涯教育 | 〈あごら九州〉 | 福岡婦人会館 | 092-752-2662 |
| 12日(日) | 14:00～ | 今後の活動方針について | 〈行動を起こす女たちの会・離婚分科会〉 | あごら読書室 | 03-354-9014 |
| | 19:00～ | 中野ハリの会 | | 「交流」事務所 | 03-385-2293 |
| 13日(月) | 18:30～21:00 | 男女平等と基準法——大羽綾子 | 〈東京有職婦人クラブ〉 | NHK青山荘 | 03-400-3111 |
| | 18:00～ | からだのひろば——ヨガくからだのひろば実行委員会 | 毎月第2・3・4月曜 | 千駄ヶ谷区民会館 | 03-402-7854 |
| | 20:00～ | 大極拳—指導・傘原拓郎 | 〈フリースクール〉300円 | 西萩ホビット村 | |
| 15日 | 20:00～ | 定例会 | 〈女裡衣〉 毎火曜日 | 〃 | |
| 15日(水) | 13:30～15:30 | 子どもといっしょにからだを動かそう! | 〈あんふあんて〉 | 神宮前区民会館 | |
| | 18:30～20:00 | 例会 | 〈あごら北海道〉 | 札幌クリスチャンセンター | |
| | 19:00～ | W・ライヒ読書会 | 〈ホーキ星〉 毎水曜日 | ホーキ星 | |
| 16日(木) | 18:30～21:00 | 婦人政策と婦人運動—隅谷しげ子 | 〈婦人民主クラブ・婦人部会〉 | 婦民ホール | 03-402-3244 |
| 17日(金) | 18:30～ | 女のからだのおしゃべり会—妊娠・出産編 | | ホーキ星 | |
| 18日(土) | 13:00～ | 女のうた—中山千夏 | 〈ホーキ星〉 | 〃 | |
| 19日(日) | 19:00～ | 男と女のための子ども講座・子どもの健康な育ち方と育児教育 | | 西萩ホビット村3F | 03-332-1187 |
| 20日(月) | 19:00～ | 月曜講座・選挙を考える | 政治と僕たち①—片岡勝 | 〃 | |
| 21日(火) | 18:00～21:00 | 松井やより著「女性解放とは何か」について | 〈婦問懇・女性史分科会〉 | 文化服装学院3F応接室 | |
| 22日(水) | 18:00～20:00 | 万葉講座 | 講師—益田勝実 | 千駄ヶ谷区民会館 | |
| | 20:15～ | シネマ・メッセージ「スワノセ第四世界」 | 〈フリースクール〉300円 | 西萩ホビット村 | |
| 23日(木) | 19:00～ | 本物の魂はいずこ・語り女、松田晴世 | 木戸銭1000円 | 六本木自由劇場 | 03-404-3891 |
| 24日(金) | 13:30～ | 男女の特性と差別 | 〈あごら東海〉 | 名古屋勤労婦人センター | |
| | 18:30～ | 女と生涯教育① | 〈あごら東京〉 | あごら読書室 | |
| 25日(土) | 13:00～ | 定例会 | 〈行動を起こす女たちの会〉 | 未定 | |
| | 14:00～ | 今後の運営について | 〈婦人問題懇話会・職場問題分科会〉 | 渋谷勤労福祉会館食堂 | |
| 27日(月) | 18:00～21:00 | 結婚の意味を問う継続討論 | 〈藤村哲〉 | 豊島振興会館小会議室 | |
| | 19:00～ | 月曜講座・非暴力直接行動—オオノ・ミチオ | 〈フリースクール〉 | 西萩ホビット村 | |
| 28日(火) | 13:00～ | 共同保育について | 〈行動を起こす女たちの会・主婦分科会〉 | 千駄ヶ谷区民会館 | |
| | 13:30～ | 東京女子大公開講演会 | ジェーン・オースティンとその娘たち—川本静子 | 東京女子大文理学部 | 03-395-1211 |
| 30日(木) | 15:00～ | 〃 | 英語の中の女性語—井出祥子 | 〃 | |

(この欄に掲載ご希望の方はハガキでお申し込み下さい。掲載無料 〒160 東京都新宿区新宿1-9-6 〈あごらミニ〉編集部)

各地の〈あごら〉例会案内

| | |
|---|---|
| <p>〔編集後記〕 何かしようとするたびに私たちが がんじがらめにする権力。これをはねのける機会 こそ選挙だと思います。しかし、今回も女の立候補 者は非常な苦戦が予想されています。私たち女の 声を伝える代表者をぜひとも国会に送り出しま しょう。ハガキ一枚の宛名書きでも、あなたので きることを各候補者にご連絡ください。</p> | <p>▽ あごら北海道</p> <p>・ テーマ未定</p> <p>・ 6月15日(水) 午後6時30分～8時</p> <p>・ 札幌クリスチャンセンター</p> <p>▽ 問い合わせ ☎ 012622416772</p> <p>山口里子</p> |
| | <p>▽ あごら東京</p> <p>・ 女と生涯教育①</p> <p>今回は長年このテーマと取り組んでおられる野 々村恵子さんを囲んで、婦人学級の問題点をさ ぐる予定です。</p> <p>・ 6月24日(金) 午後6時30分～</p> <p>・ あごら読書室</p> <p>▽ 問い合わせ ☎ 033549014 あごら事務局</p> <p>▽ あごら東海</p> <p>・ 男女の特性と差別</p> <p>・ 6月24日(金) 午後1時30分～</p> <p>・ 名古屋勤労婦人センター</p> <p>▽ 問い合わせ ☎ 0522620839</p> <p>高橋ますみ</p> |
| <p>▽ あごら九州</p> <p>・ 女と生涯教育</p> <p>・ 6月11日(土) 午後2時～5時</p> <p>・ 福岡婦人会館</p> <p>・ 梅の間</p> <p>▽ 問い合わせ ☎ 092527624</p> <p>小島豊子</p> | <p>▽ あごら東海</p> <p>・ 男女の特性と差別</p> <p>・ 6月24日(金) 午後1時30分～</p> <p>・ 名古屋勤労婦人センター</p> <p>▽ 問い合わせ ☎ 0522620839</p> <p>高橋ますみ</p> |